文教厚生常任委員会

6月17日(金)　主な質疑

委員長	西谷　一廣	副委員長	森長　秀行
委員	石本　貞夫	委員	吉田　光子
委員	尾関　伸也		
議長	小坂　重夫	副議長	伊庭　英俊

付託案件(五件)

所管する課　教育・福祉・保険・病院等

23年度補正予算(一般・特別)2件

主なもの

○学校施設工事費	108万円
○教材備品購入費	119万円
○管楽発表会負担金	20万円
○児童輸送委託費(小学校費)	44万円
○生徒輸送委託費(中学校費)	35万円

平成22年度補正予算(専決処分の承認)1件

主に事務事業の確定、負担金の確定による減額

繰越計算書の報告(一般・特別会計)2件

主なもの

○平成22年度貞光中学校改築事業費の内、1億7,212万円を23年度へ繰越す

平成二十二年度補正予算

吉田光子委員　緊急通報用電話センター委託料減額の要因は。

笠原福祉課長　平成二十二年度は当初の予想より希望者が少なかったため。

吉田光子委員　重度身体障害者に認定されている方の人数は。また、母子医療対象者数は。

吉本保険課長　重度身体障害者認定者数は三八九名で、母子医療対象者数については、平成二十二年度は一八三名であったが、二十三年度からは父子家庭を含むひとり親家庭が対象となったことから、二一五名に増加している。

小坂重夫議長　本町における後期高齢者医療対象人口ピークは。また、昨年度と本年度の対象者数は。

吉本保険課長　平成二十四年から二十五年にかけてが対象者数のピークと想定している。対象者の人数は、昨年度が二千七百六十人、本年度が二、七三三人となっている

家庭用火災報知器

森長秀行副委員長　六月までに設置が義務付けられている家庭用火災報知器の設置状況は。

大垣副町長　近年、火災で死亡する人が増加したため、設置を義務付けたようだ。美馬西部消防署でアンケート調査したところ、管内で五十五%の設置率だったと聞いている。町営住宅七六五戸及び独居老人家庭三八八戸は設置済みである。

子ども手当

吉田光子委員

子ども手当の今後の見通しは。

笠原福祉課長

平成二十二年度の子ども手当を、そのまま六か月間延長して適用する「子ども手当つなぎ法」により、九月末までは従来の一万三千円を支給することとなっている。

しかし、平成二十三年十月以降の子ども手当については法案成立の目途が立っていないため、未定である。

介護保険「高齢者実態調査」

森長秀行副委員長

今年度実施している「高齢者実態調査」の趣旨及び内容は。

吉本保険課長

平成二十四年度から三年間の次期介護保険事業計画策定にあたって、厚労省及び徳島県から要請・指導を受け、高齢者実態調査を実施している。

対象者は六十五才以上で要介護認定を受けていない方及び在宅の要支援一、二及び要介護一、二の判定を受けた方で、調査項目は日常生活状況や機能状況等である。

この調査結果をもとに地域のニーズや課題を今まで以上に的確に把握し、次期事業計画策定に役立てていくものである。

病院事業会計補正予算

吉田光子委員

補正予算に計上されている機械器具購入費の内訳は。

鎌村病院事務長

ベッドサイドモニター購入の他、今後の緊急対応も考慮し、弾力的な補正予算としている。

小坂重夫議長

南病棟耐震化改築工事に伴う病院の財政運営の見通しは。

三村病院事業管理者

病棟耐震化改築事業実施にあたっては、一般会計並びに国民健康保険会計からの財政支援を受け、本年度の病院運営はもとより後年にわたる財政負担の軽減が図れるものであり、当院としても当該事業を考慮した中期健全化計画を策定し取り組むこととしている。このような中、企業債借入抑制に努力することで元利償還額は平成十九年をピークに減少傾向となっており、今回の企業債借入に際し、財政負担の増加影響は少ないと考えている。

平成二十三年度一般会計補正予算

吉田光子委員

貞光小学校屋内消火栓用のポンプ老朽化のため、取替工事代金が計上されているが、消火栓は何カ所あるのか。

市原学校教育課長

消火栓は、屋内十二箇所に設置している。

陳情・請願

○陳情第二号　八千代診療所に関する陳情書

【採決結果】「採択すべきもの」と決定

陳情第二号は、六月十五日の本会議で文教厚生常任委員会に付託され、慎重に審議を行い、六月二十三日の本会議で採択となりました。

総務常任委員会

6月20日(月)　主な質疑

委員長　三好　昭義
委　員　荒井　匡代
委　員　上家　洋子

副委員長　田野一二三
委　員　小坂　重夫
委　員　伊庭　英俊

付託案件(八件)

所管する課　総務・危機管理・企画・地域創造・住民・人権・出納等

条例の改正(専決含む)2件

○管財課の設置ほか
○税条例の一部改正

平成22年度補正予算(専決処分の承認)1件

○事務事業の完了に伴う減額等

繰越計算書の報告1件

○平成22年度地域情報通信基盤整備推進交付金事業費の内、4,788万円を23年度へ繰越す。

23年度補正予算(一般・特別)2件

主なもの
○合併特例債の限度額補正
○人権コンサート実施委託料
○巨樹王国補助金
※事業終了後、全額交付金で町へ入ります
○半田病院事業会計繰出金

その他　2件

○過疎地域自立促進計画の変更
○土地開発公社の平成22年度決算及び平成23年度事業計画等の報告

課設置条例の改正

小坂重夫委員
新しく設置された管財課の主な業務内容は。

中川総務課長
普通財産の管理及び処分、町の入札関係等の他、今回、公会計がスタートすることにより、必要となる町有財産の価値判断等を行うことも中心的な業務になる。

税条例の改正

三好昭義委員長
この条例改正は、東日本大震災における被災地からの転入者が該当するのか。

木下税務国保課長
被災地から本町に転入し、住民税が課税された方が対象者となる。

平成二十三年度一般会計補正予算

小坂重夫委員
システム改修業務委託料とは。

木下税務課長
国民健康保険レセプト等について、これまで紙ベースで行われていたものを電子化するため、システムの改修を委託する費用である

小坂重夫委員
保険財政共同安定化事業とは。

木下税務課長
市町村国保間の保険税の平準化(同程度にする)及び保険財政の安定化等を図るため、一件あたり三十万円を超える医療費について市町村が国保連合会へ拠出金を支払い、国保連合会はこれを財源として、医療費に応じた交付金を市町村へ交付する事業である。

住宅用地の売却状況

小坂重夫委員

小山北工業団地及び定住促進住宅用地の売却状況は。

松井企画課長

小山北工業団地の平成十九年度に取得した八百㎡の用地は既設企業に売却済だが、平成二十年度取得の八千㎡の用地については、これまで民間企業より二、三件の引き合いはあったが、契約には至っていない。

また、馬出地区の定住促進住宅用地については、七区画のうち五区画が売却済みで、残り二区画については、現在、町ホームページ等で購入希望者を募集中である。

繰越計算書の報告

小坂重夫委員

木造住宅耐震改修緊急支援事業費の繰越が計上されているが、この事業の補助割合はどのようになっているか。

立道危機管理課長

今回繰越す、木造住宅耐震改修緊急支援事業費の内訳は、

①木造住宅耐震改修支援事業費(個人負担三分の一、上限六十万円)

②住宅・建築物耐震化緊急支援事業費(個人負担なし、上限三十万円)

③耐震アドバイザー事業(個人負担なし)

以上三件の事業費の一部を二十三年度へ繰越すものである。

過疎地域自立促進計画の変更

小坂重夫委員

半田病院南病棟耐震化等の工事について、過疎債と事業債の起債割合はどうなっているか。また、償還期間は。

松井企画課長

工事費から国の補助金約三億四千万円を差し引いた残額について、それぞれ二分の一を過疎債と病院事業債で充当する予定である。また、償還期間は通常、過疎債で十二年、企業債は三十年となっている。

特定健康診査等事業費

小坂重夫委員

特定健診事業費の商品券とは。

木下税務国保課長

昨年度から始めたこの商品券は、国民健康保険加入者を対象とし、特定健康診査の受診料千円を商品券(千円)で戻すことで受診促進を図り、医療費抑制へ繋げることを目的とするものである。

商品券は、貞光ゆうゆう館・半田手延べそうめん組合・つるぎの宿岩戸で使用でき、地域の活性化にも貢献できることを期待して、今年も行う予定である。

土地開発公社

小坂重夫委員

土地開発公社の近年の土地取得状況は。

松井企画課長

平成二十一・二十二年度は用地取得の実績はなく、平成十九年度に、貞光馬出地区に定住用地、約二、六〇〇㎡と小山北工業団地で約八百㎡、平成二十年度には、小山北工業団地に約八千㎡の土地を取得している。

フレッツテレビ

小坂重夫委員

フレッツテレビの工事料金は、いくら必要か。

古林地域創造課長

まず、光電話への加入が必要。光電話に加入されていれば、光ケーブルで送られてきた電波を同軸ケーブルに変換する装置を設置する工事代金約一万一、四四五円と、宅内の工事代金が必要になる。（両方合わせると一般家庭では、二万円程度）

地デジ対策は

三好昭義委員長

地デジへの移行状況は。

古林地域創造課長

町内の共聴組合施設については、すでに地デジ対応が終了している。それ以外の約一千戸については、フレッツテレビへの加入を勧めており、現在約五百戸程度の申込みがある。

フレッツテレビは、地デジ難視聴地域でも、光電話に加入していれば月約一、四八〇円の追加で視聴できるので、地デジ対策として今後も加入促進を図っていきたい。

八千代診療所

伊庭英俊委員

八千代診療所について、診療が週一回に減少したことでどのくらい患者数が減少したか。

逢坂事務長

平成二十一年度は患者の延べ人数が四、四八六人、二十二年度は三、八七六人で、一年間で延べ人数が六一〇人減少した。

全町一斉清掃のようす

巨樹王国事業とは

小坂重夫委員

今回計上されている巨樹王国事業の内容は。

古林地域創造課長

農林水産省の六次産業化を進める「食と地域の交流促進対策交付金」を利用する。交付額は、二五〇万円を二年間交付される。

平成二十三年度は、地域資源の掘り起こしを行い、都市部の若者に農家の生活体験と資源を利用したモニターツアーを実施する。

平成二十四年度は、地域資源のうち、有望なものを旅行商品として検討し、地域が元気になる仕組みを作りたい。

巨樹ツアー

小坂重夫委員

巨樹ツアーの状況はどうか。

古林地域創造課長

平成二十一年度は約三百人の参加があり、二十二年度は、巨樹フォーラムを開催したので二千人以上の参加となった。

また、平成二十三年度は巨樹ツアーを美馬市観光に委託し、五月と六月の参加状況は五十三名で好評を得ている。

町民の絆

長年暮らしてきた「つるぎ町」を終の棲家として、安全・安心に、そして心豊かに暮らしたいと思っておられる町民の方は多いのではないでしょうか。

「議会インタビュー」では、前号から町民の方のお宅を訪問し、暮らしのこと、町政への想い等、いろいろインタビューしてご紹介させていただきます。

井口節夫さん

貞光字太田東（六十八歳）
インタビュアー
森長秀行副委員長

ボランティアと言えばすぐこの方の名前が浮かぶほど。井口さんは、これまで四十年以上にわたってボランティア活動をされてきました。

森長　いつ頃からボランティア活動を始められたのですか。

井口節夫さん　昭和四十五年頃から子供会活動のお世話や指導にあたり、ＰＴＡ活動、町おこし（ぽんぽこ祭り）、補導委員、警察協助員、交通安全運動、福祉障害者支援などに携わり、少しでも人のためにといろいろボランティア活動を行ってきました。

森長　今後はどのような活動を考えておられますか。

井口節夫さん　ボランティアに関心を持ってもらえるようにと思いまして今、ボランティアの歌を作っています。

森長　東日本大震災でも、多くのボランティアが活躍されていますね。

井口節夫さん　近年、各地で発生した大規模な自然災害等をきっかけとして、ボランティアをめぐる気運が急激に高まってきています。

これからの時代は、行政だけでは迅速に対応できないことが起こることも予想されますので、そういう時に、大きな力を発揮するのがボランティアですから、町民の皆さんには、これから益々ボランティア意識を持っていただきたいと思っています。

また、ボランティア活動は、豊かで潤いのある社会づくりにつながると共に自分自身も豊かな気持ちになれると思っています。これからもボランティア活動を通じて、ボランティアの輪を広めていきたいです。

森長　是非これからも元気でボランティア活動を続けて下さい。

井口節夫さん宅で（7月13日）

ハッピースマイルにて（7月14日）

三好徳男さん

半田字平良石（八十歳）
インタビュアー
三好昭義委員

仕事の合間に読書をするのが楽しみとおっしゃる三好さん。あたご柿の手入れが忙しい時間の合間を縫ってインタビューに応じて下さいました。

三好　あたご柿の栽培面積はどの位ですか。

三好徳男さん　約一ヘクタールです。

三好　あたご柿導入にあたっては、いろいろ研究されたそうですね。

三好徳男さん　昭和三十年に森永ヒ素ミルク中毒事件が起き、牛乳の値が暴落して生業としていた乳牛の飼育が危うくなってきました。これがきっかけで、岡田清さん、重本亀夫さんと共に「平良石農事研究会」を設立し、生業としてあたご柿を導入するため栽培方法等に取り組むことになりました。

三好　では、岡田清さん達が、このあたりで最初に栽培されたのですか。

三好徳男さん　そうです。愛媛県から苗を購入してきて植えたのが最初です。

三好　その後は順調にいきましたか。

三好徳男さん　いえ、柿を植えると

他の換金作物が作れなくなり、収入源がなくなるところが出てくるという問題が持ち上がりました。

三好　柿が収穫できるようになるまで何年もかかりますしね。

三好徳男さん　それで、出荷できるようになるまで柿の間に杉苗を植樹して売ったり、桑を植えて養蚕を続けたりして、七～八年後位からあたご柿に切り替えていきました。

三好　いろんな苦労があったのですね。

三好徳男さん　平良石は北向きの斜面に柿を植えるようになり、地形的に栽培は無理だといわれていたので、苗もなかなか大きくなりませんでした。そこで、苗穴を大きく掘って有機肥料を沢山入れるなど、土作りにも苦労しました。

農業改良普及事務所の方や皆さんの協力のおかげで、無事にあたご柿が収穫できるようになりました。

三好　貴重な経験を話していただきありがとうございました。今後は後進の育成にご尽力いただけますよう、お願い致します。

三好徳男さん宅で（7月12日）

三好長治の碑（半田字平良石）

二宮昭良さん 正子さん

一宇字久藪（共に八十五歳）
インタビュアー
吉田光子委員長

ご夫妻のお住まいは、あじさい祭りが開催されるお堂の上にあります。門口に聳える立派な五葉松がお二人を見守っているかのようでした。

吉田　巨樹に指定されていてもおかしくないくらい見事な五葉松ですね。

二宮昭良さん　棟札に寛政元年（一七八九年）にこの家を建てたと記述されていまして、その時に五葉松を祈念に植えたと聞いています。この五葉松に天狗がすんでいたという言い伝えもあります。

二宮昭良さん・正子さん宅で（7月4日）

吉田　二百二十年も前からこの土地を見守ってきたのですね。

すぐ下に、阿弥陀堂が見えますが、ここで毎年あじさい祭りが盛大に開催されているのですね。

二宮昭良さん　そうです。あじさい祭りは十年前から開催していますが、毎年近隣から三百人から四百人位の人が集まって、大変賑やかですよ。

吉田　今はこんなに沢山のあじさいが見事に咲いていますが、最初の頃はどうでしたか。

二宮昭良さん　最初は挿し木をしても、なかなかつかなくて大変でした。

二宮正子さん　植え始めの頃は苗が小さいので、周りの草刈りをこまめにしたり、マルチをしたりして、いろいろ工夫しました。

吉田　あじさいが広範囲に植わっているので手入れが大変ですね。

二宮昭良さん　今は草刈りをボランティアでしてくれる人がいますので助かっています。

吉田　ここの道路からの眺めもきれいですね。

二宮昭良さん　昔は煙草などを背負って山道を上り下りしたものですが、皆が協力してくれたおかげで、こんな広い農免道路が開通し便利になりました。

吉田　これからも、あじさい祭りが長く続きますようにお二人共元気で頑張って下さい。

二宮家の五葉の松

発行　つるぎ町議会　編集　つるぎ町議会広報編集常任委員会

つるぎ町議会　〒779-4195　徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3　Tel 0883-62-3111　fax 0883-62-4944　Web_サイト http://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp

議会の動き

5月	17・18日	第36回全国町村議会議長・副議長研修会
	25日	徳島県町村議会議長会役員会
6月	7日	議会運営委員会
	15日	第2回議会定例会開会本会議
	16日	産業建設常任委員会
	17日	文教厚生常任委員会
	20日	総務常任委員会
	23日	再開本会議
	29日	徳島県町村議会議長会臨時総会
7月	5日	議会広報委員会
	11日	第3回議会臨時会
	13日	議会広報委員会

第3回つるぎ町議会臨時会開催

7月11日、臨時会を開催し、農業委員会等に関する法律第12条第2号の規定による議会推薦の農業委員を決定しました。

議会推薦農業委員

杉本博人氏（半田字小野）
畠山増夫氏（貞光字西浦）
西谷　盛氏（一宇字赤松）

議会傍聴にお気軽においで下さい

定例会は、3月・6月・9月・12月に開催しています。
次は、9月開催予定です。

本会議は一般に公開されていますので、どなたでも傍聴することができます。開会当日、受付簿に必要事項をご記入いただくだけで傍聴できます。
傍聴席の定員は30名です。
団体の場合は、事前に議会事務局まで連絡をお願いします。　☎62・3111

編集後記

三月十一日に東日本大震災が起きて四ヶ月が過ぎましたが、未だ復興も大きな進展がみられない状況です。又、福島原発も一進一退の状態が続いており、一日も早い収束を願わずにはいられません。避難されている住民にとって、安住の地の確保は何ものにも代え難い事ではないでしょうか。安心・安全に、そして心豊かに暮らせるまちづくりと経済復興の推進が急がれます。

去る四月二十五日・二十六日、被災地の炊き出し支援に参加しました。そこで目の当たりにした惨憺たる光景に、感情より先に涙があふれて止まりませんでした。遥か彼方まで、瓦礫の海でした。今も思い出すと涙が出てきます。

身体も心も温まっていただきたいと皆で作ったそうめんや豚汁などを「美味しい、美味しい」と食べてくれた方々が、そして被災された皆さんが、早く笑顔で過ごせる日が来ることを心よりお祈りしております。

（吉田）

発行責任者
議　長　小坂　重夫

議会広報編集常任委員会
委員長　吉田　光子
副委員長　森長　秀行
委　員　長浦　英彰
委　員　三好　昭義
委　員　佐藤　政正
委　員　西谷　一廣